

講演会 F.ジェフスキ：〈不屈の民〉変奏曲 ～作品の背景と分析～

コンサート当日に、演奏者みずからが講師を務める講演会！とても貴重な機会です。コンサートと合わせて是非お越しください。

ポーランド系アメリカ人の作曲家フレデリック・ジェフスキ(1938～2021)は社会的な作品のかずかずで知られています。特にその代表作〈不屈の民〉変奏曲(1975)は、1970年代のチリの革命歌〈不屈の民〉(団結した人民は決して敗れることはない!)を主題とする36の変奏で1時間にもおよぶ大作で、民衆歌の親しみやすいメロディが、クラシック音楽から現代音楽、ジャズをも採り入れた語法で縦横無尽・変幻自在に変奏される傑作。2024年にレコーディングした大瀧拓哉みずからが、コンサートの開演前にこの音楽について語る講演会です。

日時： **9/26** (土) 13:00～14:00 (12:30開場予定)
会場：静岡音楽館AOI 講堂(7F)
料金：無料

要事前申込 静岡音楽館AOI(電話:054-251-2200)までお申込みください。
ご提供いただいた個人情報は、本事業の目的以外には使用いたしません。

- ・未就学児はご入場いただけません。
- ・実演の鑑賞ではありません。
- ・都合により内容を変更する場合があります。
- ・同日に開催する「大瀧拓哉 ピアノ・リサイタル」は有料公演です。チケットをご購入のうえ、ご来場ください。



© matron2024

AOI通信

静岡音楽館倶楽部情報誌
JUN. 2026 No.122

夏号

速報 第30回 「静岡の名手たち」 オーディション合格者による コンサート 出演者決定!

10/31 (土) 15:00開演(14:30開場)
自由席 ¥2,000(会員¥1,800)
[Pコード=316-467]

22歳以下
¥1,000

静岡の音楽家の登竜門、
今年も素晴らしい音楽家8名が選ばれました。
次代を担う音楽家たちにエールを!
ご来場、是非お待ちしております。

- 大木健助(ピアノ)
 - 大沼花音(打楽器) *ロダン賞
 - 剣持まい(ヴァイオリン)
 - 須藤あゆみ(ピアノ)
 - 高山善士(リコーダー)
 - 殿岡かなみ(メゾ・ソプラノ)
 - 濱野杜輝(バリトン)
 - 松下祐信(コントラバス)
- *コンチェルト賞の該当はありませんでした。

チケットは7/25(土)より発売!
(静岡音楽館倶楽部会員先行発売7/18(土)より)

インタビュー 小川栞奈(ソプラノ) × 伊藤尚人(バリトン) オペラ・アリアの花束

静岡音楽館AOI×東京文化会館 連携事業
「静岡の名手たち」東京音楽コンクール」ジョイント・コンサート

インタビュー 山司恵莉子(オルガン)

AOIのオープン・デイ2026

コンサートシリーズ2026-27
後期シーズンの
ラインナップ発表!

静岡音楽館AOI 2026-27年度レジデンシャル・アーティスト

大瀧拓哉 インタビュー

講演会
F.ジェフスキ：〈不屈の民〉変奏曲 ～作品の背景と分析～

速報 第30回「静岡の名手たち」オーディション合格者による
コンサート出演者決定!

静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、2026年度をもって退会をご希望の方は、2027年2月末日までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館倶楽部 法人会員(2026年6月末現在)50名

- (株)アオイテレック
- (株)ジェイアール東海ホテルズ
- (株)SBSプロモーション
- ホテルアソシア静岡
- かわした歯科クリニック
- (株)タミヤ
- (株)メディア・ミックス静岡

コンサートシリーズ2026-27

主催 静岡音楽館AOI 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

特別協賛 **せいじん**
静岡信用金庫

協賛 **A アイワグループ**

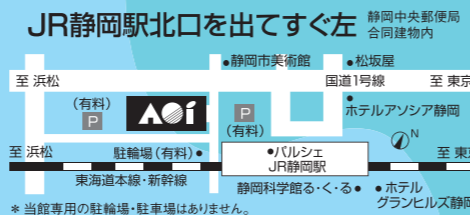
HIDEAWAY STUDIO
architecture & art

次のことを予めご了承の上、
チケットをお求めください。
皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

- ※価格は税込です。
- ※都合により内容を変更する場合があります。
- ※お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更はお受けできません。
- ※演奏中のご入場、および他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
- ※未就学児はご入場いただけません。(一部公演を除く)
- ※託児サービスはございません。

開場時の諸注意

- ※8階ホールへのエレベーターの運行は、開場時間以降となります。
- ※開場時は1階エレベーター前でお待ちの方を優先してご案内いたします。
- ※地下からご来場のお客様も、一旦1階にて列にお並びください。



月曜日休館(ただし祝日開館、翌平日休館)9:00～21:30開館
〒420-0851 静岡市葵区黒金町1番地の9

お問合せ
054-251-2200

静岡音楽館AOI 検索



インタビュー 小川栞奈 (ソプラノ) × 伊藤尚人 (バリトン)

静岡音楽館AOI×東京文化会館 連携事業
「静岡の名手たち」「東京音楽コンクール」ジョイント・コンサート

オペラ・アリアの花束

本公演に出演する、第22回東京音楽コンクール第1位のソプラノ・小川栞奈さんと、第27回「静岡の名手たち」オーディション合格者のバリトン・伊藤尚人さんに音楽の道を目指した原点から、作曲家への情熱、そして今回の公演にかける意気込みまで、二人の歌手が音楽と真摯に向き合うその素顔に迫りました。



Q. 音楽の道を志したきっかけを教えてください。

小川 母がピアノ講師だったため、物心ついた頃から音楽に囲まれていました。地元・栃木県の児童合唱団で歌う楽しさを知り、小学6年生の頃、本格的に声楽を勉強するために月1回、東京の先生のもとへレッスンに通いました。踊るのも好きだったので中学生の頃はミュージカルもやっていたのですが、高校の音楽科へ進学する頃にはきちんとクラシック音楽を学ぼうと思うようになりました。その後は東京藝術大学で勉強に励み、ミラノ留学も経験させていただきました。

伊藤 僕は対照的で、両親は普通の会社員です。ただ父母ともに合唱をやっていた経緯はあったみたいで、昔から音楽は聴いていました。ピアノを習ったり吹奏楽部でバスクラリネットを吹いていたものの当時はそこまで音楽にハマらなかったのですが、高校生の頃にジャズに傾倒し、クラリネットで音大を目指すようになりました。しかし楽器やリードの維持費が高くあきらめざるを得なかったため、地元の教育学科で音楽を学べるならと17歳から声楽を始めました。その後常葉大学短期大学部へ進み、21歳の時に初めて自分が心から歌いたい曲に出会ったことで、プロを意識するようになりました。そこから独学でロシア唱法を身につけ、今に至ります。

Q. 好きな作曲家は？

伊藤 イタリアならヴェルディやドニゼッティ。でも総合的にはロシアのプロコフィエフが好きです。ソ連という社会意識があった中で生まれた作曲家で、精神的なグロテスクさを音楽に投影するのが本当に上手だと思います。ピアノやオーケストラも作風のバリエーションが豊富で、オペラも素晴らしい作品ばかりです。あとはボロディン、ムソルグスキー、チャイコフスキー…。選びきれなくて悩みますね。ロシア音楽は勉強すると全てが繋がっていくので、結局みんな好きになっちゃいます。

小川 私が好きなのはベッリーニです。そもそも私は様式美が大好きで、レチタティーヴォ、カバティーナ、カバレッタ…という決まった構成の中で、歌手が技術を見せながら自由に歌えるか、ということに心が動きます。歌手によって演じるキャラクターや作品の特徴は変わりますが、それを表現するには強靱な声や、厚いオーケストラに負けない身体が不可欠。とすると、どうしても「この役はこの声の人」という傾向が出てしまいます。その点、例えばヴェルディやドニゼッティは、オーケストラがワルツのリズムを刻んで歌を補助するなど、歌手の声が一番よく聴こえる作りになっています。初演当時の歌手たちの発声も現代とは違っていたでしょうし、歌手が自身の得意なところを見せられる「様式がある中での自由さ」には非常に惹かれますね。

また、ベッリーニの音楽は旋律が綺麗なのももちろんですが、フレーズが長くシンプルなんです。だからこそ歌うのが難しく、一切のごまかしが利かない。そこに格別な思い入れがあります。

伊藤 同感です。ベッリーニはシンプルだからこそ粗が目立ってしまう。聴いてると「この曲ってそんなに難しいの？」と感ずるかもしれませんが、イタリア語の響きやディクシオン(発音)が完璧にできていないと、普段は特段高く思わない音域でも出しづらくなると思います。僕、それこそ彼の〈Vaga luna, che inargenti〉(優雅な月よ)という曲は歌の基盤なんだろうなと思っていて、これが歌えないとイタリアの歌曲は歌ってはいけないのではないかと、思うくらい特別難しいです。これはたぶん小川さんの方が分かると思うのですが…。

小川 〈Vaga luna, che inargenti〉や〈Ma rendi pur contento〉(喜ばせてあげて)は音大受験生がよく歌う曲だと思いますが、私は留学中、シチリアの先生のレッスンでは、最初はこれらの曲しか歌わせてもらえませんでした。何なら最初の1フレーズだけでレッスンが終わるレベルで、そこができないと先に進ませてもらえませんでした。そういう意味ではベッリーニが完璧に歌えれば、例えばモーツァルトの作品でも、ドイツ音楽でも、あらゆるものが上手に歌えるのではないかと考えています。私にとって初心に立ち返る大切な存在です。

伊藤 ロシア音楽にも「これができないとその作曲家の色が出ない」というのがあるんですよ。僕が歌うチャイコフスキーの(騒がしい舞踏会でも)、楽譜の字面上は簡単そうに見えますが、実はスウィングのような独特の揺らぎが隠されています。ロシア語の韻律を理解せ

ず、ただ楽譜に忠実に拍子を刻んで演奏してしまうと、非常につまらない音楽になってしまうんです。「言語+独自の音楽(例えば形式)」の基礎というのはどのジャンル、楽器に問わず感動するし、勉強のしがいや楽しさがありますね。

小川 今は歌う難しさを話してしまいましたが、聴く人には「へえ、そういう難しいことがあるんだね」くらいに留めて、歌の美しさを純粋に楽しんで欲しいです。

Q. 「静岡の名手たち」オーディションや東京音楽コンクールでの思い出を教えてください。

伊藤 オーディション当日は「久々にロシア音楽が歌える！」という喜びが勝っていました。合否よりも、審査員やお客様に少しでもロシア音楽の良さを感じてもらえたら、それが自分にとっての正解だと思っていたんです。だからこそ肩肘を張らずに歌えたのかもしれない。幸いなことにコンチェルト賞までいただきましたが、受賞を全く意識していなかったのが「本当に自分で良いんですか！」と思っていましたし、その情報が発表されたときは、僕よりも周囲の人たちの方がはるかに驚いていました。

小川 実は以前も東京音楽コンクールを受験していて、その時も本選まで進んだのですが、当時は初めてのオーケストラ伴奏に戸惑い力を出し切れないまま終わった苦い記憶があります。その後、留学を経て2024年に再挑戦したのですが、あろうことか第2次予選の当日に交通事故に遭ってしまって。人生、本当に何が起るかわかりませんね。幸い外傷はなかったんですが、ショックで全身の筋肉が硬直し、声帯の繊細なコントロールが全く利かない絶望的な状態でした。それでも必死に歌い切った時の気迫が通じたのか、奇跡的に本選へ進むことができました。一週間後の本選も決して万全ではありませんでしたが、「この舞台に立てる幸せをとにかく楽しもう」と心に決めて挑みました。結果、指揮者やオーケストラの皆さんと素晴らしい相性で音楽を紡ぐことができ、楽しんで歌い切ることができました。「普通に歌えることは当たり前ではない」と身をもって知った、大切な経験です。今では一日一日を大切に積み重ねていこうと思えるようになりました。

伊藤 声楽というのは身体的にも精神的にもストレスが如実に出てしまうものですね。心身ともに健やかな状態で歌えるという幸せが当たり前ではないんだなと本当に思います。情熱だけで乗り切れた若い頃とは違い、今はもっと繊細な心身のバランスの上に立って音楽と向き合っている気がします。

小川 でも苦悩があるからこそ芸術ができる、色を出す、深みが出る、説得力が出る、ということはあるですね。人生の喜びも辛さもすべて背負って歌うことは、この道の醍醐味であると思います。上手くいなくてもそれは「今日の自分の演奏」と割り切る。「完璧な自分を見せたい」という思いを少し手放して「ありのままの自分」を見てもらう、と考えられるようになって、少しだけ楽になれた気がします。

Q. お二人の共演歴は？

伊藤 今回が初めてです。小川さんとは静岡国際オペラコンクールで初めて会って、彼女の歌を聴いたときに「すごい人がいる」と衝撃を受けたんです。共演できるなんて本当に光栄ですし、小川さんの素晴らしい声とテクニックを間近で感じられるのが本当に楽しみです。

Q. 本公演のプログラムの紹介をお願いします。

小川 この公演が決まったとき、まずは二人で歌える曲がないか探しました。ソロはお互い、自身のレパートリーから選曲しています。

伊藤 二人の重唱については、小川さんの素晴らしいテクニックを存分に活かせる曲をと考え、最初にお互いの共通レパートリーである《リゴレット》が決まりました。そこを軸に全体のプログラムを組み立てています。

小川 《リゴレット》は演目としては重い物語なので、幕開けには明るいドニゼッティの重唱を入れました。また、ピアニストの大貫さんにはリスト編の《リゴレット》パラフレーズを演奏していただきます。作品の世界観を多角的にお楽しみいただける構成になったと思います。実は私、先ほど伊藤くんが話していた静岡国際オペラコンクールで《リゴレット》の〈ジルダの Aria〉を歌って、審査員から「あなたのレパートリーではない」と厳しい講評をいただいたんです。それが悔しくて、もっと説得力のあるジルダになりたいと勉強を続けてきました。今回はその時とは違う、進化したジルダをお聴かせしたいと思っています。

伊藤 僕のソロではとにかくロシア音楽の魅力を届けたくて、チャイコフスキーの歌劇《スペードの女王》からエレットキーの Aria〈貴方を愛しています〉を入れました。温かくて、思わず涙が零れてしまうような祈りに近い愛の歌です。たとえストーリーをご存じなくても、言葉を超えて伝わるものがあるはず。これはかつて「静岡の名手たち」オーディションでも歌ったのですが、その時よりも更に深まった表現を目指します。



© 堀田丸九



撮影：日置真光

Q. ピアニスト 大貫瑞季さんのご紹介をお願いします。

伊藤 僕は以前、オペラの稽古ピアニストとしてご一緒しました。コンクールでお見かけするたびに圧倒的な演奏を披露されているので、今回もどんなステージになるか本当に楽しみです。

小川 大貫さんとは大学の同期で、とても長い付き合いです。今は藝大のオペラ科や二期会などで若手の育成にも携わっていて、大活躍されています。テクニックはもちろん、歌手の呼吸やテンポを汲み取る力が抜群に上手。歌手の要求に臨機応変についてきてくれる、素晴らしいピアニストです。

Q. 最後に、音楽を勉強する方々へのメッセージをお願いします。

伊藤 今は音源や動画という模範解答が視聴できる時代になったからこそ、先生とのレッスンで答えを急いしてしまうと思うんです。でも演奏において一番大事なものは、自分が「何が良い」と思ったかという感動を持つことだと思います。童心的な感動は音楽にとって大切です。また、挑戦するための失敗というのは今後の自分にとって最高の糧になるので、答えよりも、いいものを探して挑戦してミスをする、ということが大切です。着飾らず、ありのままやってきたこと全てが音楽になるので、自分らしくいて欲しいです。

小川 伊藤くんと同じです。「その日のうちに全てできるようになりたい」と焦る気持ちも理解できますが、焦らず、地道にコツコツと努力することが音楽をやる上で何より大切だと思います。努力はすぐに報われるとは限りませんが、絶対に裏切らないので、忍耐強く続けて欲しいと思います。

聞き手：山本れいな (静岡音楽館AOI 学芸員)

静岡音楽館AOI×東京文化会館 連携事業
「静岡の名手たち」「東京音楽コンクール」
ジョイント・コンサート

オペラ・アリアの花束 **22歳以下 ¥1,000**

7/11 土 11:30開演 (11:00開場) ※12:30 終演予定
指定席 ¥2,000 (静岡音楽館倶楽部会員 ¥1,800)
[Pコード=309-312]

連携：東京文化会館 (公財) 東京都歴史文化財団

出演
小川葉奈 (ソプラノ / 第22回東京音楽コンクール声楽部門第1位)
伊藤尚人 (バリトン / 第27回「静岡の名手たち」オーディション合格者)
大貫瑞季 (ピアノ)

曲目
G.ドニゼッティ：歌劇《ドン・パスクワレ》より 二重唱〈準備はできたわ〉
G.ロッシーニ：歌劇《セヴィリアの理髪師》より〈今の歌声は〉
なかにしあかね：今日もひとつ
P.I.チャイコフスキー：騒がしい舞踏会 op.38-3
歌劇《スペードの女王》より〈貴方を愛しています〉
F.リスト：《リゴレット》パラフレーズ S.434, R.267
G.ヴェルディ：歌劇《リゴレット》より
前奏曲
〈愛しい人の名は〉
〈悪魔め鬼め〉
〈いつも日曜日に教会で〉

インタビュー 山司恵莉子 (オルガン)

大好評のオルガン¥500コンサート。
3歳児からご入場いただける夏休みコンサートに、山司恵莉子さんが出演します。

Q. 静岡で演奏されるのは今回が初めてでしょうか。静岡の印象や、来演にあたり楽しみにされていることがあればお聞かせください。

静岡での演奏は初めてです。2016年にオルガンアシスタントで初めて静岡音楽館AOIに伺った際、オルガンとホールの美しさに感動したことを今でも覚えています。それから10年経った今、演奏させていただく機会をいただきとても光栄に思うと同時に、どのような響きと音楽を創ることができるのかとてもワクワクしています。

Q. 3歳よりピアノを始められ、大学在学中にオルガンと出会われたとうかがいました。その出会いや、オルガニストを志したきっかけについてお聞かせください。

中学校からミッションスクールだったのでオルガンには親しみを持っていたのですが、英文学科の学部1年生の時にヘンデルの《メサイア》のオーケストラパートを大学のオルガニストの先生がオルガンで演奏しているのを聴いた時に、非常に強い魅力を感じました。もともとオーケストラが大好きだったのですが、1人で極小音から大音響まで自由自在に操っている姿がまさに「1人オーケストラ」だったのです。学部2年生から教養の科目でオルガンのレッスンを履修し、またオルガン演奏会でアシスタント経験を重ねていくうちに、ますますオルガンの奥深さに魅了されていきました。

Q. ピアノからオルガンを学ばれる中で感じられた、ピアノとは異なるオルガンの魅力についてお聞かせください。

ピアノの音の透明感や減衰していく儚さ、表現の繊細さには、オルガンを弾く時間の方が長くなった身としては改めてハッと気付かされるものがあり、敢えてオルガン曲をピアノで練習したりもします。オルガンの大きな魅力の一つには、「音の伝わり方」があると思います。ホールや教会も楽器の一部となり、空気の圧として全身に響く感覚は、イヤホンやスピーカーでは体験することのできない特別な感覚です。また、1台1台が人間と同じように異なる個性や性格を持っているため、どうしたらその楽器の良さを十二分に引き出し、お客様に届けることができるかを模索することも、一番大変でもあり贅沢で楽しい時間でもあります。

Q. フランス・トゥールーズ地方音楽院に留学されていましたが、トゥールーズはどのような街ですか。

トゥールーズはフランス南西部に位置する都市で、様々な歴史的なオルガンが歩いて行ける距離に点在している、オルガニストにとっては宝の山のような街です。中でも、ロマネスク様式の美しいサン・セルナン大聖堂にはフランスの名工カヴァイエ=コルが建造した素晴らしいオルガンがあり、その響きを浴びた感覚、そして演奏した体験は今思い出しても鳥肌が立つほど感動的なものでした。

Q. 今回ご出演いただく公演は、3歳のお子様から大人の方までお楽しみいただけるコンサートです。プログラムの聴きどころや、オルガンの魅力を感じていただけるポイントをお聞かせください。

バッハのオルガン曲やクラシックの名曲、そして映画音楽など、幅広い世代の方々に楽しんでいただけるプログラムとなっております。煌びやかで華やかな世界、幻想的な魔法の世界、どこかノスタルジックな世界など、静岡音楽館AOIのオルガンの多彩な音色を通して想像の翼を自由に広げていただけたらと思います。

Q. オルガンという楽器を通して、どのような音楽を届けたいとお考えでしょうか。演奏にあたり大切にされていることとあわせてお聞かせください。

演奏者とお客を繋げる方法として大事にしているのが、MCや当日配布するプログラムノート(曲目解説)などがあります。オルガンと客席は物理的な距離がある場合が多く、また一般的に馴染みのあるオルガン曲というのはまだ非常に限られています。オルガンが持つ無限の可能性を、心の距離を縮めながらお伝えしたいと考えています。

Q. 最後に静岡の皆さまにメッセージをお願いします。

静岡音楽館AOIのオルガンを通して、心躍るような楽しい時間や安らぎのひとつをみなさまと共有できましたら嬉しいです。会場でみなさまにお会いできるのを心から楽しみにしております！

オルガン¥500コンサート 夏休みコンサート 山司恵莉子 (オルガン) 8/26 水

11:30開演 (11:00開場)
※12:30終演予定
※3歳児からご入場いただけます(チケットが必要です)。
自由席 ¥500 [Pコード=309-315]

曲目
J.S.バッハ：〈主よ、人の望みの喜びよ〉BWV147 (M.デュリュフレ 編)
フーガ ト短調 BWV578
F.メンデルスゾーン：《真夏の夜の夢》op.61 より〈結婚行進曲〉
A.メンケン：映画「アラジン」より〈ホール・ニュー・ワールド〉
久石譲：映画「ハウルの動く城」より〈人生のメリーゴーランド〉
J.ウィリアムズ：映画「ハリー・ポッター」メドレー
P.I.チャイコフスキー：バレエ組曲《くるみ割り人形》より 第3曲〈金平糖の精の踊り〉
第7曲〈葦笛の踊り〉
第8曲〈花のワルツ〉



写真：サン・セルナン大聖堂のオルガン



写真：サン・セルナン大聖堂の外観



AOIのオープン・デイ2026

入場無料

※各イベントおよび事前申込の詳細は、静岡音楽AOIのHPまたは「AOIのオープン・デイ2026」チラシをご覧ください。

8/5(水) 10:00～17:00

音のふしぎをさぐってみよう

会場：講堂前(7F)
時間：10:00～12:30 ※12:00受付終了
講師：静岡科学館る・くるスタッフ
定員：各回9名程度 ※順次ご案内します。
※混雑の際にはお待ちいただく場合があります。



申込不要

パイプオルガン、やってるよ!

会場：ホール(8F)
時間：①11:00～11:30
②13:30～14:00
※開場は開演の30分前
出演：佐藤初音(オルガン)
定員：600名(自由席)
※0歳児からご入場いただけます。



AOI探検ツアー

要事前申込・多数抽選

舞台袖や楽器庫などを、静岡音楽館AOIのスタッフがご案内!(オルガン鑑賞を含みます。)

時間：①11:00～12:30
②13:00～14:30
③13:30～15:00

定員：各25名
※申込締切：7/10(金)
※WEB応募のみ

8/8(土) 10:00～16:30

ロビー・コンサート

会場：ホールロビー(8F)
時間：①10:15～11:00(10:00開場)
クラリネット三重奏
②12:45～13:30(12:30開場)
金管五重奏
出演：常葉大学短期大学部音楽科
※混雑の際には入場制限をする場合があります。



リコーダー・ワークショップ

要事前申込・多数抽選

会場：リハーサル室2(7F)
時間：①11:00～12:00
②13:30～14:30

講師：笛のおねえさんharuka*(リコーダー)ほか
定員：各25名
対象：小学校3年生以上(大人のみの参加可)
*リコーダーは各自でご持参ください。
*申込締切：7/10(金)
*WEB応募のみ

だれでも10分間ピアニスト

申込不要

会場：共通ロビー(1F)
時間：10:00～14:00
*おひとり10分間、演奏できます。
*混雑の際にはお待ちいただく場合があります。



名曲でめぐるクラシックとジブリの世界

「静岡の名手たち」による室内楽

要事前申込・多数抽選

会場：ホール(8F)
時間：15:00～16:30(14:30開場)
出演：嶋田慶子、小杉結(ヴァイオリン)、御法川隼矢(ヴィオラ)、生駒宗雄(チェロ)、佐川裕昭(コントラバス)、薩川美和子(ピアノ)、宮田優(メソ・ソプラノ)

対象：600名 ※未就学児はご入場いただけません。
*申込締切：7/10(金)
*チケットの発送をもって、当選の発表とさせていただきます(当選者には7/24(金)までにお送りします)。

静岡音楽館AOI×東京文化会館 連携事業

ジャン＝フランソワ・エッセール 秋山友貴 ピアノ・デュオ・リサイタル

レベッカ・サンダース×ドヴォルザーク&ラヴェル
2/27(土)16:00開演(15:30開場)
指定席 ¥4,000(会員 ¥3,600) [Pコード=316-474]

出演：ジャン＝フランソワ・エッセール(ピアノ)* 秋山友貴(ピアノ)*

曲目：A.ドヴォルザーク：スラヴ舞曲集 op.46, op.72 より** (連弾)
R.サンダース：Shadow(シャドウ)* Choler(コラー)** (2台ピアノ)
M.ラヴェル：ソナチネ* 亡き王女のためのパヴァーヌ* ラ・ヴァルス** (2台ピアノ)

(連弾) 東京文化会館(公財)東京都歴史文化財団

音楽の女神 セシリア・シリーズ Vol.1

村治佳織 ギター・リサイタル

3/13(土)15:00開演(14:30開場)
指定席 ¥5,500(会員 ¥4,950) [Pコード=316-475]

出演：村治佳織(ギター) 大瀧拓哉(ピアノ/静岡音楽館AOI 2026-27年度レジデンシャル・アーティスト)*

曲目：～ロドリゴ生誕125年目を迎えて～
M.ラヴェル：亡き王女のためのパヴァーヌ
J.ロドリゴ：アランフェス協奏曲**

～マイ・フェア・リット・ソングス～
B.M.R.ギブ：愛はきらめきの中に
稲松伸夫：ゲーム音楽(ファイナルファンタジー)より
(「ギョウカイ」にて)
(「ファイアのテーマ」)

村治佳織：エターナル・ファンタジア
L.アルベニス：グラナダ(ス페인組曲) op.47-1)
M.ファリヤ：粉屋の踊り(リハレ音楽(三角帽子)より)
J.トゥリナ：セビリアーナ



© Sayaka HIKIDA

今年の夏も！音楽とともに、2日間たっぷりAOIをたのしもう！

毎年好評につき！

8/5(水)、8(土)両日開催!!

わくわく！いろいろな楽器にふれてみよう♪

会場：講堂(7F)
時間：8/5(水) 12:30～17:00
8(土) 10:00～14:30

*体験できる楽器は、HPをご覧ください。
*途中、楽器ごとに休憩をいただきます。
体験できる時間は当日会場にてご確認ください。
*混雑の際にはお待ちいただく場合や入場制限をする場合があります。



申込不要

チェンバロってどんな楽器？

申込不要

会場：リハーサル室1(7F)
時間：11:30～14:30 ※13:30受付終了
講師：安達正浩(クラヴサン工房アダチ)
定員：各回30名程度
※1回50分程度、順次ご案内します。
*混雑の際にはお待ちいただく場合があります。



コンサートシリーズ2026-27 後期シーズンのラインナップ発表!

チケット7/25(土)より発売 (静岡音楽館倶楽部会員先行発売7/18(土)より)

静岡 学室内楽フェスティバル2026

子どものためのコンサート

川久保陽紀 遠藤真理 三浦友理枝 トリオ ～3つの楽器でめぐる音楽の世界～

10/10(土)15:00開演(14:30開場)

指定席 ¥2,000(会員 ¥1,800、高校生以下 ¥500) [Pコード=316-460]

出演：川久保陽紀(ヴァイオリン)、遠藤真理(チェロ)、三浦友理枝(ピアノ)

曲目：J.ブラームス：ハンガリー舞曲第5番(Hitoshi NAKAMURA 編) 第6番(W.F.AMBROSIO 編)

M.ラヴェル：《マ・メール・ロフ》より(演習二編)

V.モンテディ：チャールダーシュ

坂本龍一：戦場のメリークリスマス(ほか)

*このコンサートは小学生を主な対象としています。

3歳児からご入場いただけます(チケットが必須です)。

*演奏中、静かに鑑賞していただけなかった場合は、観客室などをご案内いたします。

22歳以下 ¥1,000

静岡 学室内楽フェスティバル2026

第30回「静岡の名手たち」オーディション合格者によるコンサート

10/31(土)15:00開演(14:30開場)

自由席 ¥2,000(会員 ¥1,800) [Pコード=316-467]

出演：第30回「静岡の名手たち」オーディション合格者

裏表紙をご覧ください！

22歳以下 ¥1,000

静岡 学室内楽フェスティバル2026

第16回 アマチュア・アンサンブルの日♪

11/23(月・祝)12:00開演(11:30開場) ※18:00観演予定

自由席 無料(申込不要)

*定員によりご入場をお断りする場合があります。
*このコンサートは未就学児もご入場いただけます。

劇音楽《アルルの女》全曲

12/12(土)16:00開演(15:30開場)
指定席 ¥6,000(会員 ¥5,400) [Pコード=316-470]

出演：沼尻竜典(指揮)

静岡祝祭管弦楽団(コンサートマスター：水谷晃)

びわ湖ホール声楽アンサンブル

大川修司(合唱指揮)

春日井一平 SPAC-静岡県舞台芸術センター(ナレーション)

曲目：G.ビゼー：劇音楽《アルルの女》op.23(全3幕)

*脚本は書き下ろしです。

[協力] SPAC-静岡県舞台芸術センター

[助成] Koto Music 公益財団法人 西川音楽財団

22歳以下 ¥1,000

静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業

竹久夢二を歌う

2/20(土)15:00開演(14:30開場)
指定席 ¥4,500(会員 ¥4,050) [Pコード=316-473]

出演：幸田浩子(ソプラノ) 大瀧拓哉(ピアノ/静岡音楽館AOI 2026-27年度レジデンシャル・アーティスト)

曲目：竹久夢二の絵と言葉

多志亮：宵待草(伊藤康英 編)

藤原草：草の夢

藤井清水：子守歌、春のあした

小松耕輔：母

中田善直：風の子供(ほか)

シューベルトとリスト：ます op.32, D950

F.シューベルト：アヴェ・マリア(「エレンの歌」第3番) op.52-6, D839

楽に寄す op.88-4, D547

春へのあこがれ(待春詩) (歌曲集(白鳥の歌) D957 より)

F.リスト：花かそなれ(君は花のごとく) S.287, S.607

愛の夢 第3番(おお、愛よ) S.298, R.589(ほか)

[協力] 呉市藤井清水の会、静岡市美術館

静岡市美術館「竹久夢二 時代を創る表現者」展

2027年1月23日(土)～3月28日(日)

22歳以下 ¥1,000

Q. 演奏活動で忙しい日々をお過ごしだと思いますが、音楽から離れてリフレッシュするときにはどのように過ごされていますか。

時間があるときはゆっくりお酒を飲みながら料理をしています。YouTubeやInstagramで美味しそうな料理を見つけてチャレンジして、どんなお酒が合うかなと試したりするのが好きです。あとは本を読んだり温泉やサウナでゆったりするのが好きですが、週2回はジムに通ってしっかり筋トレしてリフレッシュしています。

Q. 今後取り組んでみたい作品、またピアニストとしてこれから探求していきたいテーマがあれば教えてください。

来年AOIでのリサイタルでショスタコーヴィチの《24の前奏曲とフーガ》全曲の演奏を予定しています。これは数年前からずっと弾きたいと思い温めてきたプログラムで、今ではショスタコーヴィチとその音楽の背景や当時の社会情勢などを勉強することがライフワークとなっています。ジェフスキから派生したのですが、今僕が強興味があるテーマは「音楽と社会との関係性」です。特に20世紀の緊迫した世界情勢、またその中での人々の複雑な心理状態などを、芸術家はどのように表現し、後世に残そうとしたのか、非常に興味があって取り組んでいます。

Q. 最後に静岡のお客様へメッセージをお願いします。

9月26日のリサイタルでは、バッハの有名なフランス組曲第5番、静岡音楽館AOIの初代芸術監督である間宮芳生さんがこのホールの為に作曲されたエチュード、そして私がここ数年特に大切なレパートリーとしているジェフスキの「〈不屈の民〉変奏曲」を演奏いたします。この素晴らしい作品たちをAOIの素晴らしい音響で、静岡の皆様が生で体感していただければ幸いです。是非とも足をお運びください。



© 藤本史昭

静岡音楽館AOI 2026-27年度レジデンシャル・アーティスト

大瀧拓哉 ピアノ・リサイタル

22歳以下 ¥1,000

9/26(土) 15:00開演(14:30開場)

指定席 ¥3,000(静岡音楽館倶楽部会員 ¥2,700) [Pコード=309-314]

出演：大瀧拓哉(ピアノ)

曲目：J.S.バッハ：フランス組曲第5番 序曲 BWV816

間宮芳生：エチュードIV～VI -ピアノのために- (静岡音楽館AOI委嘱作品)

F.ジェフスキ：〈不屈の民〉変奏曲

同日に、大瀧さんみずからが講師を務める講演会も実施します！講演会の詳細は裏表紙をご覧ください。